

キャンパス名

筑波大学

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

主催団体名	(人数)	環境対策団体名	(人数)
筑波大学学園祭実行委員会	約 100 人	環境サークルエコレンジャー 学園祭環境対策プロジェクト	5 人

学園祭名	開始日	終了日
雙峰祭	10 月 6 日(土)	10 月 8 日(月)

2007 年度の学園祭テーマ

「新」筑波世代

来場者数	模擬店数
約 30,000 人	350 店舗

学園祭 HP

<http://www.sohosai.com/>

環境対策 HP(学園祭の環境対策ページ、環境サークルのサイトなど)

なし

学園祭で行った環境対策・環境企画一覧

ごみ分別の徹底	割り箸・木材のリサイクル	フリーマーケット
(個別企画)環境関連の展示	(個別企画)地産地消がテーマの模擬店	

このレポートの問い合わせ先

環境サークルエコレンジャー 山本泰弘 (国際総合学類2年)

○ゴミ処理について○

分別数	分別内訳
7分別	もやせるごみ、あきカン、あきビン、ペットボトル、もやせないごみ、わりばし、その他(ダンボール・新聞紙)

ゴミステーションの数	構内の普通のゴミ箱の数
12 箇所	常設のごみ箱は封鎖

ゴミステーション・ゴミ箱への工夫

各模擬店に「もやせるごみ」と、「ペットボトル」あるいは「わりばし」の2種類のゴミ箱の設置を義務付けた。(他の分類については任意で設置することとした。)

ステージ企画の行われるステージ周辺にもやせるごみのごみ箱を重点的に設置

ゴミ(廃棄物)の総量		8,400kg	
(内訳) もやせるごみ	7,410kg	ビン	180kg
ペットボトル	20kg	カン	190kg
不燃物	230kg	わりばし	70kg

ゴミ処理に要した人数	ゴミ処理に要した時間	ゴミ処理に要した費用
実行委員会 50 人+各模擬店からのスタッフ	66 時間(※1)	ほとんど 0 円(※2)

※1・・・学園祭各日 7-26 時:19 時間 翌日 9-18 時:9 時間 19×3+9=66 時間

※2・・・大学が廃棄物処理を委託している企業によって処理されているため、学園祭実行委員会が特に費用負担をしているわけではない。

### ○自由アピール欄○



ごみ処理業者:筑波学園環境

わりばしリサイクル業者:(株)ヤマゲン

### <学園祭実行委員会と環境サークルエコレンジャー>

筑波大学の学園祭「雙峰祭」は、模擬店数が多いという点が良くも悪くも特徴とされています。しかし、その割には伝統的に使い捨て容器・廃棄食品などのごみ対策をはじめとする環境問題が十分に考慮されてきたとはいえませんでした。環境サークルエコレンジャーはこの問題を長年意識してきましたが、特定の継続的な取り組みを続けてきたわけではなく、実行委員会との堅固な協調体制を築くに至りませんでした。

莫大な量に上るごみの処理については、毎年学園祭実行委員会が(一時期、エコレンジャーも)多大な労力を払い対応に当たっています。しかしその排出に関して大規模な対策・改善が図られることはなく、学園祭の陰の部分として粛々と処理されてきたといえます。大部分の学生にとって、8,000kgを超える莫大な量の廃棄物が出ている事実と直面する機会はありません。



しかし、今年度は学園祭実行委員会が「分別は美しい」というテーマを設定して公式パンフレットの表紙裏に左図のページを設け、環境対策の初歩としての分別の徹底を訴えました。特に今年度は新たに割り箸のリサイクルを始めるにあたり、出店団体への説明会で念入りに理解を求めたこともあり、学園祭全体で分別・リサイクルへの関心が高まったと考えられます。

環境サークルエコレンジャーも、今年度は早期からメンバーが実行委員と連絡をとり、協調を模索しました。第一の目標であったECO学園祭ネットワークへの全面加入は実現しなかったものの、実行委員会側で企画していた割り箸リサイクルについて経験豊富なエコレンジャー側から留意点を伝えたり、ECO学園祭ネットワークが主宰するエコ容器・間伐材割り箸共同購入への一定の理解を得る

ことができました。

## ＜エコ容器・間伐材割り箸共同購入＞

雙峰祭でのエコ容器・間伐材割り箸の共同購入は、エコレンジャーが主体となり“部分的に”実施されました。実行委員会が従来通りの容器・割り箸共同購入を行うのに並行して、希望する出店団体を募ってエコ容器・間伐材割り箸を販売しました。30 団体から注文が寄せられ、一定の反応が得られたと考えています。（ちなみに、取り扱い商品の「お椀」は一般品よりエコ容器のほうが安価でした。）

出店団体への説明会で発表ができる制度を利用し、全参加団体へ向けエコ容器・間伐材割り箸・ECO学園祭ネットワークについて情報発信を行いました（配布資料 1,2 参照）。これまでにない形のアプローチだったため、注文数以上に学生の関心を喚起したと思われます。注文品受け渡しまでの荷受け・保管・受け渡し場所の確保については実行委員会の厚意と協力を得ました。

エコ容器・間伐材割り箸を注文した団体に対しては、受け渡し時にその環境効果やECO学園祭ネットワークの情報などを掲載した資料（配布資料 3 参照）と店頭掲示用のロゴマークパネルを配布し、活動への理解を呼びかけました。パネルには各団体が環境への意気込みを書き表せる欄を設けました。

（学園祭三日目の10月8日はECO学園祭ネットワーク代表の渡辺さんがはるばる来筑し、エコレンジャーのヤマモトの案内で雙峰祭を視察しました。実際にエコ容器を使用する模擬店も体験し



てもらいました。・・・なお、開催日で渡辺さんが来筑した日のみ雨模様で、渡辺さんが会場を立ち去った後に天候が回復したことは内緒です。)



#### <今後の課題>

社会で幅広く環境への意識が高まり、大学の学園祭でも次々と積極的な環境対策が実施されている風潮の中、雙峰祭は運営側から一般学生に至るまで祭りをを行うことによる大量のごみ排出・エネルギー消費に対する責任意識が未熟と言わざるをえません。今回は実行委員会の中の一部署、ならびに学生の中の一サークルが新たな一歩を踏み出したといえますが、本来環境という課題は学園祭に関わる全員が取り組むべきものです。実行委員会がはじめから環境を強く意識した実行計画を練ること、その姿勢を来場者も含めた雙峰祭に関わるすべての人に伝え、みんなが自然に環境配慮行動を起こせるような仕組みづくりが求められます。

環境サークルエコレンジャーは、今回のエコ容器・間伐材割り箸共同購入のような独立した行動から発展し、雙峰祭全体における環境対策について学園祭実行委員会を支援していきたいと考えています。